

第40回宮前地区青少年作品展「絵画の部」講評

宮前地区青少年作品展は、宮前地区の子どもたちが家庭や地域の子どもの会などで表現した作品を集めたもので、今年で40回目となります。子どもたちの作品がこのようなたくさん集まり、スタッフのみなさんのご尽力のおかげで作品が身近な区役所に展示され、このような作品展が地域に根付いていることが素晴らしいと思います。

今年も力作ぞろいで、子どもたちの心が動いた瞬間がたくさん表現されていました。好きな昆虫、動物、のりもの、地域の風景、秋の季節、想像したこと、家族や友達との思い出、夢やメッセージの伝わってくるものなど、多岐にわたって表現されていました。

絵の作品は、描画材の特徴が生かされ、色を何色も重ねて工夫されている作品が多く、描いているときの子どもたちの思いがたくさん伝わってくるものでした。

ちぎり絵は、紙の選び方を工夫したり糊付けの作業をととても丁寧におこなったりしていることが伝わってきました。とても魅力的な作品が多かったです。

イラストは、構図や色使いが個性的なものが多く、作品の世界に引き込まれました。子どもたちの発想力、創造力のすばらしさを感じました。

これからも、子どもたちが自分の思いを大切に、自分らしさを表現し続けていてくれることを願っています。

審査員 川崎市立犬蔵小学校 校長 藤原 由布子